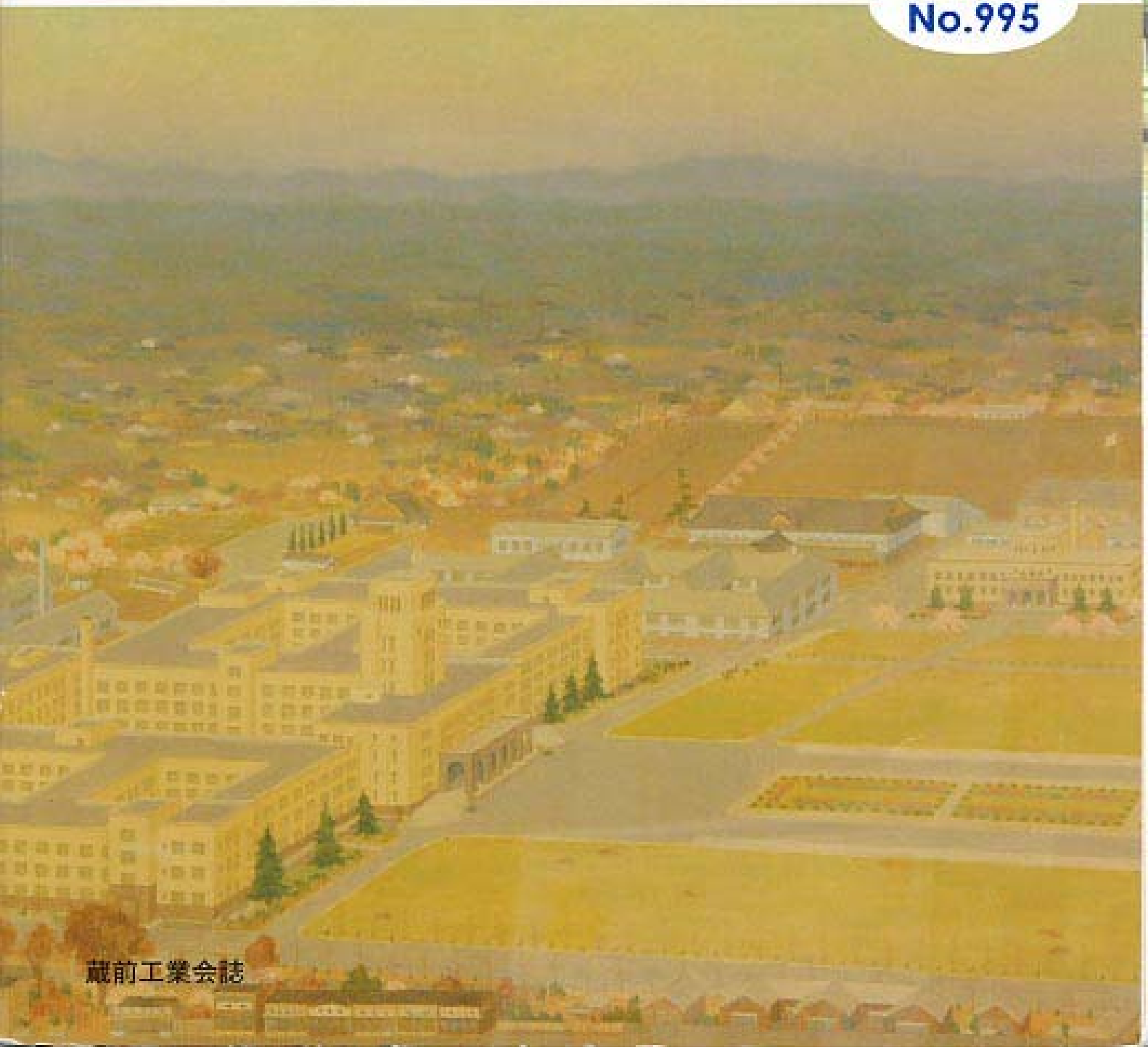
ISSN 13461451

東京工業大学同窓会

Kuramae Journal

蔵前工業会 創立100周年記念特集

2006
No.995



蔵前工業会誌

「桜花会」

大学院理工学研究科 応用化学専攻 教授
碇屋　隆雄

「桜花会」は本学応用化学関連の学部、大学院の卒業生および教職員からなる同窓会であり、平成６年に伝統ある応用化学系関連学科の「応化会」から改称しました。応用化学系の同窓会の歴史は古く、昭和５年にそれまで卒業生の集いであったものを、同窓会「応化同志会」として組織したことに端を発します。戦中、戦後の混乱期に同窓会は一時休止状態になりましたが、昭和５４年に「応化会」として再興して、さらに組織の拡大と充実を図ってきました。しかし、社会の化学に対する厳しい要請や産業界におけるニーズの変化に対応して、大学組織が改編され、さらに大学院の重点化、独立法人化など大学や応用化学系関連分野も大きな荒波にさらされ、それまで拡大してきた同窓会組織も見直しを迫られました。そのような背景から、平成６年に会の名称を「応化会」から母校の美しい桜並木を想起して頂く意味を込めて「桜花会」に改称しました。それまでの応化会の会員に加えて、現在の工学部化学工学科応用化学コースと大学院応用化学専攻、および物質科学専攻応化系の卒業生および教職員を会員として、再々出発しております。

「桜花会」の初代会長として横山亮次氏が就任し、それまでの事業に加えて先輩方の特別講演会や会員と在校生とのバス旅行の実施など、会員と在校生との交流と親睦をはかるための事業を行って参りました。さらに、平成１３年より会員からの寄付を基金として「桜花会教育奨励事業」を発足させ、大学院生の海外研究発表に対する支援金の供与など、在校生の研究教育の支援事業も重要な活動として実施しております。平成１５年から２代目会長に就任した古川昌彦氏を中心に、毎年１０月、工大祭の期間中に応用化学専攻の研究室を会員にも開放して、最先端の研究成果を紹介するとともに、定期的に同窓会誌を発行して会員の連帯感を深めるなど、積極的に会員と在校生との交流を促進しております。さらに毎年３月に実施する卒業研究発表に対しては「桜花会賞」を制定して、優れた口頭発表とポスター発表をした学生を表彰しております。大学院生が桜花会賞の審査から表彰までを運営して、卒論発表会が学生同士の切磋琢磨の場ともなっております。

桜花会は現在、会員からの会費によって運営されております。会員の在学時代に教育研究を通して授かった教えに対する感謝の気持ちが桜花会推進の原動力となっております。桜花会では会員および在校生、教職員が一丸となって、同窓会の本来の在り方を求めて活動しております。

(詳しくは桜花会ホームページをご覧ください。
▶▶▶ http://vs.kuramae.ne.jp/okakai/)

(S48 修化工 S51 博化工)

今年の卒業式後に行われた桜花会協賛の卒業祝賀会の一場面